石狩川流域委員会（第 17 回）　議事要旨

■日　時：令和５年１０月２５日（水曜）１０：００～１２：００
■場　所：札幌開発建設部４階　１号会議室
■出席者：黒木委員長、中村副委員長、井上委員、上田委員、岡田委員、片石委員、定池委員、清水委員、山田委員（以上９名）

■議題
（１）河川整備計画及び石狩川流域委員会について
（２）豊平川の概要
（３）豊平川河川整備計画のフォローアップについて
（４）整備目標流量の考え方
（５）河川環境及び治水をとりまく状況など
（６）今後の予定

■議事要旨
（１）河川整備計画及び石狩川流域委員会について
・特に意見無し

（２）豊平川の概要
・特に意見無し

（３）豊平川河川整備計画のフォローアップについて
・堤防を強化して、例えば越水しても破堤しないようにすれば、被害を減らすことができるのではないか。（委員）
→越水しても破堤しない堤防を作れれば被害を減らす事ができるが、まだ技術が確立されていない。（事務局）

・北海道の降雨量変化倍率 1.15 倍の議論というのは、あくまでも直轄に対する議論であって、補助の河川に対してそういう指示は出ていないのか？（委員）
→確認する。（事務局）

・資料２の２２ページの右側の図だと、地下空間への影響がわからないため工夫が必要。住民等へ説明する上でも必要だと思う。（委員）
→地下空間への影響がわかるよう図を工夫する。（事務局）

・資料－２の２５ページのリスクの図は、イメージと結果の解釈がわかりにくい。これか

らの河川整備によって、この色がどのように変わるとか見せ方が大事だと思う。
また、この地域でTCFDやTNFD、GRIに取り組む企業に、国で進めている河川整備の情報が使えるような枠組みがあれば、企業活動のサポートになると思う。北海道の一級河川が先んじて新しい価値観を出せるように持っていくことが重要。（委員）

・河川のどこが被災すると、どの地域の影響が大きいか等、将来ビジョンを踏まえた整備の優先箇所を考えるなど、流域を俯瞰してリスクを把握することが重要。
企業がリスクを考える際の情報としても必要。（委員）
→リスクの見せ方について工夫する。（事務局）

・直轄区間だけではなく、道区間においてもどのようなリスクが想定されるのかを示してもらうとわかりやすいと思う。（委員）
→検討する。（事務局）

・資料－２の２２ページについて、都市部を貫流する豊平川であるからこその氾濫被害や影響について記載があると良いと思う。また、帰宅困難者に対するオペレーションについても検討が必要と思う。（委員）
→ご意見として賜った。計画策定の参考とさせていただく。（事務局）

・整備計画の見直しにより道や市などの他事業へ影響等がある場合は、双方の意見交換をぜひ深めていただきたい。（委員）
→流域治水協議会等の場を活用し、情報共有を図っていく。（事務局）

・資料－２の１５ページに「豊平川の降雪量が減少傾向にあり、将来的に水不足が懸念される」とあるが、今後この整備計画の中で、この水不足に関してはどのように計画の中に入れて考慮していくのかお聞きしたい。（委員）
→近年は雪が減っており渇水に至る可能性を踏まえて、貯留できる施設等の検討は必要と考える。（事務局）

（４）整備目標流量の考え方
・治水安全度を 1/50 から 1/80 に上げると言うのか、気候変動後においても現行計画と同程度の治水安全度（1/50）にすると言うのか、対外的にわかりやすく伝える必要がある。（委員）
・次期河川整備計画における目標流量として気候変動後の 1/80 を目指すという考え方もあるのではないか。（委員）
→河川整備計画の考え方としては、概ね 30 年程度の整備の内容であるため、今回の整備計画の見直しでは気候変動後においても現行計画と同程度の治水安全度（1/50）にする

のが妥当と考えている。（事務局）

・整備計画目標流量を変える前に、基本方針流量を変更すべきではないか。（委員長）
→河川整備基本方針は変更までに時間を要することから方針変更を待たずに、整備計画を変更する必要が高い河川については現基本方針の内数にて整備計画の見直しを進めてよいことになっている。
道内の他河川も随時整備計画の見直しに着手している。（事務局）

・資料－２の２５ページや３０ページのアンサンブルデータで過去実験の結果を示す際、これまでの整備の成果を示してほしい。
また、３１ページの下の※にある 1/80 で被害が急増することについて次回説明していただきたい。（委員）
→次回、お示しする。（事務局）

（５）河川環境及び治水をとりまく状況など
・資料－２の３６ページの生態系ネットワークの展開では、今後、石狩川流域において取組を推進していくと思うが、その中で豊平川における具体的な目標を考えて欲しい。また、ネイチャーポジティブの取組についても合わせて考えて頂きたい。
河道掘削についても平水位掘削にこだわらず、どのような環境とするかを踏まえ、掘削の深さを検討していただきたい。（委員）
→石狩川流域における生態系ネットワークの形成に向けた取組を進めていく。保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐとともに、地域振興や経済活性化も期待したい。（事務局）

・豊平川は日本で一番サケに関する情報が集まっている重要な河川である。床止め工の段差や湧水が出ている箇所に、維持可能なスポーニングチャンネル、人工的な産卵床を作ってはどうか。『196 万都市でサケの自然産卵が河岸から見られる』というのは世界に誇れる事だと思うので、積極的に進めていただきたい。（委員）
→人工的な産卵床造成など事例について確認したい。（事務局）

・資料－２の３９ページに「洪水の安全流下の支障とならない範囲でオジロワシ等の止まり木を保全する」とあるが、豊平川のような河道掘削等の整備が難しいところで、安全に流下させられないような状況になった時に木が切れなくなるのではないか。あえて都市部に生息する必要があるのか疑問であり、生息場として流域全体で考える視点も必要だと思う。（委員）
→洪水の安全な流下等に支障とならない範囲については、河川環境の保全に留意していきたいと考えている。（事務局）

・資料－２の４４ページの流量観測や測量の担い手不足の問題に対して、シミュレーション技術や PIV やリモートセンシングの技術によって人手不足を補えると思うので、そういった最新技術をもっと活用すべき思う。
また、グリーンレーザー等のデータについても、研究データとして活用できるよう情報公開していただきたい。（委員）
→リアルの充実とデジタルによる補完というのが基本だと考えており、リアルを実際に行いつつ、それを補完する技術を確実にしていきたいと考えている。情報公開については局内のルールに基づき進めていく。（事務局）

・資料－２の２０ページの河床洗掘対策区間について、帯工等の対策を実施しているが、なぜ床止の整備を８号床止めで止めたのか。（委員）
→豊平川の上流側の河床洗掘は、昭和 56 年洪水以降に土砂が流出して顕著になったと聞いている。その以前では問題が顕在化されておらず、平成になって対策を検討し始めたのが基本的な経緯だと思っている。豊平川では、９号床止めまで計画されていたが、当時問題が顕在化されていなかったため施工には至らなかったと思われる。（事務局）

・資料－２の３８ページの「サケの産卵環境の創出に良い環境があった」とあるが、その良い環境はどういうものか、どうやってそれがわかったのか。（委員）
→豊平川のサケ科学館の産卵床の調査から、産卵床が増えているため、良い環境であったと捉えている。（事務局）

・資料－２の４０ページに色々なイベントが記載されているが、そのような川に親しむ機会を利用して防災に関する普及啓発等実施していただくのが効果的であると思う。
（委員）
→パネル展は多くやっており、アンケート調査も実施している。治水に対して札幌市民の皆さんがどのように考えているか、次回の流域委員会でお示しする。（事務局）

（６）今後の予定
・流域では対処していくべき水害リスクを抱えており、河川整備計画の点検の必要性についてはコンセンサスが得られたと思う。
次回以降は具体的な整備に向けた代替案やグリーンインフラ関連等について説明していただきたいと思う。（委員長）
→次回は年内の実施を予定している。（事務局）

以上